

『学校力向上に関する総合実践事業』 コーナー その6



前ページに引き続き「本校の取組（学校力向上や校内研究）の成果・課題の積極的発信」（公開研究会の開催）について、紹介します。

3時間の授業の公開終了後は、体育館に会場を移し、開会式の後、「学校力向上の取組及び成果・課題」について、教務主任の山本教諭が、「南小の研究の概要」について、研究部長の鈴木教諭が、それぞれスライドを使いながら説明しました。



その後、国語分科会（4年教室）と算数分科会（6年教室）に分かれて行った研究討議では、それぞれ熱心な討議が行われ、参加者から多くの貴重な意見や感想をいただきました。

国語分科会では、授業者（担任：新岡教諭、TT：斉藤教諭）から授業の説明の後、参加者や、助言者の檜山教育局 中西指導主事からは、

- ・全員参加を保障し、どの子どもも参加しやすい雰囲気の中での授業だった。
- ・今日の授業のように、聴き合ったり、伝え合ったりする活動が大切だと思った。
- ・学習したこと（ノート）を振り返りながら授業に臨んでいて、子どもたちに力がついている。

などの感想と助言がありました。

算数分科会では、授業者（担任：福山教諭、TT：押見教諭）から授業の説明の後、参加者や、助言者の檜山教育局 竹内主査からは、

- ・ノートと板書との深い関わりについて考えさせられるきっかけとなった。
- ・子どもたちを「楽しませたい」「分かってもらいたい」という担任の思いを感じた。
- ・なるべく早い時間帯で「わかった」を子どもたちに実感させることができるとよりスムーズな授業展開になった。

などの感想と助言がありました。



ただし、上記にあるような肯定的な意見ばかりではなく、授業の進め方に対する厳しいご指摘や鋭い質問、また、南小の研究内容そのものに対する疑問も多くありました。学校としては、それらの意見等を真摯に受け止め、この日が新たな「スタート」であることと押さえ、改めて方向性を定めて、授業改善の継続に努めていく覚悟です。

最後に行った野中信行氏による講演会は、「学級を軌道に乗せる「学級づくり」「授業づくり」の在り方」と題して、『安心・安全な居心地のよい学級』をつくるために“してはいけないこと”を示した後に“成功する手立て”について示したり、『学力を向上させる授業』についても“問題点のある授業”を示した後に、授業づくりに大切な“3原則”を示すなど、とても聞きやすく、日常の実践に役立つ講演でした。参加者アンケートからは、



- ・授業改善における原則について、改めて自らの授業を見直す機会となりました。
- ・全てが明日からの学級経営の参考になるもので、本当に貴重な機会でした。

などの感想が記述されていました。

なお、研究会全体に対する感想には、

- ・早い時期での開催に感謝します。・素晴らしい研究会をありがとうございました。

という労いの言葉の他に、

- ・本時のめあてを明確にし、授業の見通しをもたせる南小の研究をどう整理して発信していくのか興味をもっています。

などの意見（期待感）をいただきました。

本事業の実践指定校として、さらに南小のチーム力を高め、学校として進化していこうという思いを強くしたところです。